
PEACE MAKER

コメヤ庄吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

PEACE MAKER

【Zコード】

Z5357M

【作者名】

コメヤ庄吉

【あらすじ】

架空の国、亞芽李課のモンチエスター州に住む、巨大でマッチョな体にボーッとした性格をした主人公アレックスは大学卒業を控えているのにその性格と無口が祟り、州軍しか行き先が残されていなかつた。

しかしひょんな事からファンタジー世界で上官、ミクレガンと一緒にビドい日にある日々が始まる・・・

文章力無し！ミリタリー知識は大してない！ファンタジー知識はモノハンだけのおれがどこまで書けるかの挑戦がいま始まる！

第一話「アレックスの従軍日記」

ある屋下がり、亞芽李課のモンチエスター州軍基地にて
「よーし、どんな弱輩も、軍に入ればたちまちバーサーカーだ！さ
つそく貴様は新兵だ！」

「・・・」
頷くこのマッチョで大柄な眉無し男はアレキサンダー。
学校を卒業したはいいが、無口とボーッとしている性格が災いし、
州軍しか行き先が無かつたのだつた。

「・・・・」

応接室を出て陸軍兵舎まで歩くアレキサンダー。

「・・・・・」

自分が割り振られた部屋に着いて顔を出す

「よーう、新入り、話は聞いてるぜ、俺あミク、ミクレガン上等兵
だ。

お前のルームメイト兼教育係になれって言われたがー・・・厳しく
すんのと偉そうにすんのはどーも苦手でなあ。
ま、授業中に友達から問題教わる位なノリで考えてくれりやいいよ。
じや、よろしくな」

この小柄でよく喋る天パ金髪男はミクレガン、通称ミクだ。陽気で
気さくだがスナイパーライフルを握らせると性格が変わる。
別に某インターネットで大人気のネギくさい人との関係はない。
「あ、アレックスでいいよな。」

頷くアレキサンダー。

「よーし、俺達いい相棒になれそうだ！」
一人アレックスの手を握りはしゃぐ。

「あ、そーだ、新人の歓迎だ。俺が手料理作つてやるよー。」
「・・・・」

頷くアレックス

「えーと、アレをこーして……」

狭いキッチンに立つて暴れ出すミク

「う熱つちい！」

おげつ！おかしいな、あんま美味くならん。砂糖入れてみつか

最初はただ見ていたアレックスだつたが、30分くらいしてから見
かねてキッチンに乱入した。

「あ、おい、なにすんだよ」

ミクを押しのけて調味料と刻んだ玉ねぎを入れるアレックス

「つたく、新兵つてこんななんだっけ？俺が新兵の時はそんなことす
る勇気なかつたぞ・・・うまい」

文句を言いながら味見するが、予想外に美味しかったのに驚くミク
「やるじゃねえかおい！」

嬉しそうにアレックスの肩をばんばん叩く

「よーし、もう食おう、食おうぜ！」

皿に盛つて食事となつた。

「・・・・（結局なんの料理だつたんだろう・・・）」

翌日から訓練は始まり、アレックスはなんとなくそれをこなした。
そして訓練とミクの話を黙つて聞くこと数日・・・

「今日はSMART、JAPAM KAMSAI支部からブービー隊
長指導の下、体術訓練を行う！」

彼に一泡吹かせた奴は一階級昇進だ

ハゲでヒゲの太つた隊長が大声で言う

「あー、どもども、ご紹介にあずかりました、ビリーつす。まあ指
導つつつても殴り合いの相手するだけなんやけどね。殴り合いの中
でなんかを見つけてくれるとうれしいわ。」

メガネをかけた小柄な関西弁の男、ビリーが軍基地の滑走路にある
自分が乗ってきたサンダーボルトの前で言う

「ほな・・・何人でもええからかかって来いやあ！…」

ビリーが言つた瞬間何人もの兵士が殴りかかった

「おひあつ！」

しかし百戦錬磨のビリーの敵ではなく、兵士たちほぼ軽くシメられていた。

「出遅れたな俺達」

ミクの言葉に頷くアレックス

「お、どうしたんや君ら。なんか作戦でもあんの？」

他の兵士を蹴り飛ばしながら叫びビリー

「いえ、特に。」

「や、なら吹っ飛べ！」

ビリーのキックが容赦なくミクに入った

「ほづえ！」

遙か彼方へぶつ飛ぶミク

そのまま小屋に墜落する。

「よししゃ、次は君やな

「・・・」

構えるアレックス

「おるあ・・・ん？」

飛びかかるうとするビリーだが、遠くから何か聞こえたので振り向くと、ミクがスナイパーライフルを持って突撃してきていた。

「つおらああああああっ！…弾はねーけどかかって来いやああああ…」
蹴りを入れようとするビリーだが、蹴りをSVD狙撃銃の尻で弾かれ、さらに銃身を持つて振り回すミクに圧倒された。

「わわわっ、マヂかよ・・・およ？」

そこでアレックスがビリーの頭を掴み、持ち上げた

「・・・・・！」

「あ痛ででで…！」

渾身の力でビリーの頭を握りしめる

「コンニヤロー・コンニヤロメ！」

そしてビリーの体を狙撃銃で殴るミク

「でででで…・・・痛いっちゅーとるやう…」

ミクの顔面に蹴りを入れ、アレックスのみぞおちに後ろ蹴りを入れて逃げるビリー

そしてジャーマンスープレックスホールドホールドでアレックスは地面に突き刺さり、ミクはそのまま倒れた。

「あー、久々に死ぬかと思った・・・」

頭を押さえてふらつくビリー

「いかがでしたかな?」

「あー、そのアレックス君とミクレガン君、昇進ね」

そしてミクとアレックスはそれぞれ技術兵と一等兵となつた。

「ええー！？俺が技術兵ですか！？」

「・・・・！？」

それから数時間してから目が覚め、医務室のベッドで叫ぶミク

「そうだ、一泡吹かせたからな。」

「しかし技術兵には専門技術が要るはずじゃ・・・」

「君、入隊する前はガンスマス（銃を設計、制作する人）だつたそ
うじゃないか。」

それで十分だよ

「そうですか・・・やつたな相棒！」

頷くアレックス

そして数年後・・・

アレックス達は二人組のテロリストの重要人物の逮捕に向かつてい
た。

「・・・・確保」

ビルの屋上で男の腕の関節をキメて伏せさせるアレックス

「どうする？まだ抵抗するかい？撃たれるのが嫌なら武器を捨てて
頭の後ろに手を組んで伏せてもらおうか」

ミクは残りの一人に銃を向けて言つ。

「ちくしょう！！」

伏せるスキンヘッド男

「えー、こちらミクレガン、ハゲとヒゲ確保どうぞ。至急、回収頼む」

二人は特殊部隊に配属されていた。

そななある日

「今回のミッションは雪山での遭難者の救助だ。実働班と一緒に俺とアレックスも山で実際に探索を行う。残りのお前らはヘリの手配を頼む。」

「サー！ イエッサー！」

「終わつたら俺の手料理、食わせてやるからなあー、へへへつ」

「えー、ミクレガン曹長の料理ですかー？ アレキサンダー軍曹の方が良いであります」一人が言つと、他兵士達に笑いが巻き起ころ
「なんだよもう・・・じゃ、頑張ろうぜ、アレキサンダー一等軍曹」
「・・・・・」

1年が経過する間に大昇進をしていた二人。

ミクは曹長に、アレックスは一等軍曹となつていた。

そして冬山

アレックスとミクは冬季迷彩とゴーグル、マスク、プロテクターに身を包み、緊急用のAK突撃銃とスナイパーライフルを持ってスノーモービルで搜索、無事に遭難者を助け出したのだった。

「じゃ、俺らの迎えのへりたのんだわ。」

「はい」

「・・・・・」

無事、山の中腹で遭難者を助けた一人は定員オーバーのヘリを見送り、次の迎えを待つっていた

「なあ相棒」

鍋をバーナーでわかし、レーション（軍事用簡易食料）を温める中、ミクが話しかける。

「・・・・・」

「おー、おひつてば…」

「・・・！」

「まったく、こんな寒い所でボーッとしたら死ぬぞ・・・」

「・・・」

「いや、笑い」とじやないから。て言つかお前の笑顔初めて見たかも

も・・・」

「・・・？」

少し怪訝な表情をしてみせるアレックス

「そんなことないって？ そうかあ？」

でも、お前來たばかりの時に比べて表情豊かになつたよな・・・。
あんな悲惨な戦場も潜り抜けてきたのに、すげえよ

「・・・！」

「え、どうした？ 急に」

会話の途中で慌てて指を差すアレックス

「え？ 何よ？」

指を指した方向を見ずにアレックスの顔を覗き込む

「・・・ 雪崩だ」

アレックスが叫んだ（？）時にはもう遅し、雪崩は一人を飲み込んだ

「あーっ！－！」

「・・・！」

そのままアレックスとミクは意識を失った

そしてアレックスはふと目が覚めた

「・・・」

目を開けると青空が見える。

「・・・・・・」

とりあえず起き上がつて周りを見渡すと眼前には草原が広がり、右側には森が広がっていた。

「・・・・・」

頭を2、3度かいて少し考えた

しかし難しいことを長時間考えていられない性格のアレックスはすぐと考えるのをやめた。

「ミク・・・・」

改めて周りを見渡すがミクレガンの姿は見えない

「・・・・・」

とりあえず落ちていたザックを背中に背負い直し、ミクを探すことにして

「ピギィイイイッ！！」

「・・・・・！」

そこに突如、巨大な鳥が現れたのだ！

つづく

主な登場人物紹介

アレキサンダー

通称アレックス。見た目は巨大でイカツいが、ボーッとした性格で無口。

これと言った特技は無いが、地味にマルチな才能を発揮して大抵のことは難なくこなす。

ミクレガン

通称ミク。天パでブロンド頭の小男。

よく喋り、短気でじつとしているが、狙撃の時は別。
趣味は料理だが恐ろしく下手で、何度か食べた者を氣絶させている。
特技は狙撃と武器制作。軽量武器、重火器、鈍器など、大抵の武器に精通している。

何度も言うが別にあのYAMAHAから出てきたDTMなネギの人とは関係ない。

ビリー

架空の国 JAPAM の架空の傭兵部隊、SMAAT に間違つて登録されてしまつた一般人のメガネくん。だが異常な身体能力と喧嘩慣れしているため普通に活動している。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5357m/>

PEACE MAKER

2010年10月9日18時37分発行